

日本現代史を専攻する小宮ゼミは「九州地方の特長を活かした戦後の復興に着目し、現代へのプロセスを学ぶ」というテーマのもと、福岡県を訪れました。福岡県は太平洋戦争の空襲により都心部の殆どを焼失するも、海陸両面で復興を遂げ、九州の中核となった土地です。九州国立博物館では戦前から戦後への多様な変化を、福岡アジア美術館からは戦後の日本文化の広がりを感じました。

中でも三日目に訪れた門司港レトロでは、旧大阪商船や旧門司税関の実際の建物から、当時の人々の名残を体感した点が非常に全員の心に残りました。三宜楼では普段入ることの出来ない場所に特別に入らせて頂いたり、特別展の現代アートから福岡の景色の素晴らしさも堪能し、非常に貴重な経験となりました。また全日程の中で、飲み会やゲーム大会等を通して、普段の大学生活ではあまり無いゼミ生間の絆が深まる機会が多々あり、深い学びに加えて充足感も得られる旅行であったと考えます。

今回の研修旅行を通じて、戦後の九州の新たな側面とゼミ生たちの新しい一面を知り、思い出に満ちた2泊3日となりました。



【福岡アジア美術館】

一日目は福岡アジア美術館を訪れ、体験スペースではアジアの多様な本に触れました。また、ボランティアの方の解説を沢山聞いて、幅広い観点から作品を捉えることができました。

【太宰府天満宮】

2日目に訪れた太宰府天満宮では、おみくじやお守りを買って楽しみました。九州国立博物館からのルートで、歴史と自然をこの目で見ることができました。



沢山の人で賑わっていました。ゼミ生の中には太宰府天満宮全てを満喫しようと、天開稲荷社や宝物殿に向かう人もいました。

【門司港】

門司港駅は歴史を感じ、荘厳とした雰囲気でした。門司港レトロの大きな橋では海を体感し、建築物や食を通して門司港を満喫しました。旧門司三井倶楽部、旧大阪商船、旧門司税関、三宜楼、海峡プラザを訪れました。三宜楼では案内の方が隅々まで紹介してくださり、お土産に手作りのしおりもいただきました。

